

つむいだきずな、つながっていく。



地域との 「絆」をつなぐ

～笛水小・中学校(高崎町)～

高齢化や人口減少が進む中、独自の地域おこしに取り組んでいる高崎町笛水地区。子どもたちも地域の一員として夏祭りや体験教室などの活動を盛り上げながら地域との強い「絆」をつなぎ、たくましく成長しています。(写真は陶芸教室の際の一コマ)

放課後の子どもたち



私たちが子どものころ、放課後や週末になると地域の児童公園は元気に遊ぶ子どもたちの声がひびきわたっていました。少子化や共働き世帯の増加、また安全な遊び場の減少からでしょうか、最近では地域で群れて遊ぶ子どもたちの姿を見かけることが少なくなりました。

子どもの成長に、「集団」や「遊び」がもたらす役割はとても大きいと言われています。放課後や下校時に子どもたちが被害にあう事件が相次ぐ中、地域では大人たちが協力し、各地で「安全パトロール」や「安全マップづくり」などの安全対策が進められていますが、このような対策だけではなく、「安全に、そして健全に子どもたちが育つ環境づくり」も必要とされています。

そこで今回は、放課後や週末の子どもたちの安全な居場所づくりとして、市が進めている「放課後児童健全育成事業」について取材しました。

子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保し、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などへの取り組みを充実させる事業…



地域住民の
参加・協力

スポーツや文化活動

体験の場

学習活動

学びの場



さまざまな昔遊びなど

遊びの場

交流の場

地域の大人や異年齢の
子どもとの交流活動



生活指導
家庭との連絡など

生活の場

それが

放課後児童健全育成事業です。

都城市放課後児童健全育成事業のしくみと利用状況

小学校(38校):9,722人

・1~3年生:4,865人 ・4~6年生:4,857人

[2009年5月1日現在]

放課後児童クラブ

- 公立公営 15か所
(利用児童数:469人)
- 民立民営 18か所
(利用児童数:718人)
- 問い合わせ
市役所こども課
☎23-2684

放課後子ども教室

- 公立公営 11か所
(利用児童数:277人)
- 問い合わせ
教育委員会生涯学習課
☎23-9545

さまざまな公共施設

- 児童館児童センター 16か所
- 公民館 22か所
- 体育館(学校は除く) 29か所
- 図書館 2か所
- 市民会館 1か所
- 博物館など 4か所

- ◆特 徴/「保育の場」
(家庭の代わり)
利用者は登録制
- ◆場 所/学校余裕教室
児童館、保育園
専用施設など
- ◆対 象/共働き家庭など
留守家庭のおおむね
10歳未満の児童
- ◆指導者/専任の児童指導員
を配置
- ◆負 担/利用料(月額4,000円)
おやつ代、傷害保険料

- ◆特 徴/「教育の場」
(学習活動の支援)
利用者は参加登録制
- ◆場 所/学校余裕教室、児童館
地区公民館など
- ◆対 象/すべての子ども
(幼児・中学生も可)
- ◆指導者/コーディネーター
安全管理員
学習アドバイザー
- ◆負 担/利用料(無料)
材料費
スポーツ保険料

児童館・児童センター

- ◆特 徴/「遊びの場」
(厚生施設)
利用は自由
- ◆対 象/0歳~18歳
- ◆指導者/専任の厚生指導員を
配置
- ◆負 担/利用料(無料)
- ◆制 約/一度帰宅してから通所。
おもちゃ、飲食物の
持ち込みは禁止

放課後児童クラブ(実施場所)

<公立公営>
川東小、東小、祝吉小、大王小
明道小、明和小、梅北小、丸野小
今町小、志和地保育児童館
山之口つくしんぼ、有水小、山田小
木之川内小、谷頭児童館
<民立民営>
南小、五十市小、西小
沖水小(第1、第2)
五十市保育園、相愛保育園
ルンビニ保育園、乙房保育園
たんぼぼ保育園、さつき保育園
山野原保育園、上長飯エンゼル
児童館(第1、第2)、安久児童館
さかえ児童館、都原児童センター
高崎児童福祉会館

放課後子ども教室

(実施場所)
上長飯小
吉之元小
夏尾小
西岳小
御池小
四家小
高崎麓小
縄瀬小
姫城地区公民館
祝吉地区公民館
横市地区公民館

地域の子育て支援

学童保育活動(自主活動)
子ども会活動
スポーツ少年団
塾・スクールなど

※「公立公営」とは、市が直営で運営している施設、
「民立民営」とは、市が運営を外部に委託している施設です

放課後の子どもたち

— 市内の「児童クラブ」「児童館」「子ども教室」 —

afterschool

自然とあそぶ…

五十市保育園放課後児童クラブ

12年前に卒園生の保護者からの要望を受け、数人の子どもを預かったのがきっかけで、児童クラブを始めました。2人から4〜5人、10人へと増え、今では、27人の子どもを毎日預かっています。私たちが経験してきたように、自然の中でのびのびと遊んでいくうちに、生きる力は確実につちかわれています。



秘密基地での穴ほりや、みんなで集めてきた枯れ葉や枝で焼く焼き芋は最高に楽しいよ！ お芋はおやつの時間に食べるんだよ。

保育園で年長児を担当した保育士が児童クラブを担当するシステムになっているため、子どものことを把握してる分、スムーズに保育にあたれます。子どもたちと自然の中で「焼き芋」や「木登り」を体験していると、子どもたちから教えられることもたくさんあります。（専任児童指導員）



◆園長先生のご自宅の庭を秘密基地と焼き芋の専用スペースとして提供されています

体験・交流を大切に…

上長飯エンゼル児童館

地域の高齢者や児童委員・主任児童委員、そして高校生・大学生のボランティアとともにさまざまな活動を行うことで、人とのかわりを大切にする子どもたちの「心豊かな人間性」をはぐくんできています。



児童館のおまつり「エンゼルフェスタ」。高校生や地域のボランティアの方々が大勢参加してください。身近な遊びや手作りおもちゃなどで一緒に遊び、楽しい時間を共有しています。

大勢の子どもたちの成長に直接かかわる仕事ですから、自分の子育て経験や自分流の考えだけではできません。働きながら子育てをする親を励ましたり、子どもたちの心に寄り添いながら発達を援助するために、学習会を開いたり、研修会へ参加したりしています。（専任厚生指導員）



安全で安心して遊べる居場所

上小スマイルふれんど

「放課後子ども教室」は、子どもたちが安全に安心して遊べる居場所をつくり、地域の方との交流活動や異学年の友達との遊びを通して、ひと付き合いについて学んだり、心の豊かさをはぐくんだりすることを目的としています。「上小スマイルふれんど」では「ルールを守り、みんなが笑顔で仲良く楽しく遊び・学ぼう」をモットーに活動しています。



ミニボウリングは地域の高齢者クラブの皆さんに教えていただき、一緒にプレイしました。七夕かざり作りには、妻ヶ丘中の生徒さんがボランティアで参加してくれました。



1年生から6年生まですべての子どもたちが楽しい！と感じる遊びを計画することは大変ですが、子どもたちが笑顔で楽しそうに遊ぶ姿を見たり、ちょっとした事でも成長が見えたりした時はうれしいですね。（コーディネーター）

tsunagari

放課後の子どもたち

——子どものいえ、保護者のいえ——

子どものいえ

学童保育所に通って学んだこと

私の家は、世間一般で言う両親が働いている共働きの家庭です。母に聞くと私は、0歳から保育所に通所していたそうです。(中略)

小学校に入学してからは学校が終わってから学童保育所に6年間通いました。親が仕事から帰ってくるまでの間親代わりになって私たちの面倒を見てくれるところでした。そこでは、指導員という人がいて私たちの親代わりをしてくれます。学校から帰ってくると「おかえりなさい」と一人ひとりに声をかけてくれます。そしてお腹がすいているとおやつを作ってくれていて、本当おいしかったです。

学童保育所には小学校の1年生から6年生までいて、兄弟が何人もいるようです。私にはお兄ちゃんしかいませんが、学童に通ったおかげでお姉ちゃんも弟も妹も、何人も兄弟ができました。そして、一番よかったところは、同級生が4人いて夏にはキャンプに行つてテントをはったり、トーチをもって踊ったり、冬にはスキーに行つて夜遅くまでいろいろな話をしたりして楽しかったです。普段では経験できないこともできました。

このように学童保育所は、いろいろな行事があつて楽しかったです。6年間通えたのは、私たちの面倒を親代わりになってみてくれた指導員がいたからだと思います。私が学校でいやなことがあつたりすると相談にのってくれました。今考えると指導員が本当にお父さんお母さんの代わりをしていていたんだなあと思います。(中略)

私は、学童保育の指導員をみて、保育に関係のある職業に就きたいと思います。そしてその仕事を続けていくためにも、小さな子どもを安心して預けられる所がたくさんできることが大切だと思います。

※これは第53回全国小中学校作文コンクールで優秀賞をとった名古屋市市の中学1年生の作文から抜粋させていただきました

保護者のいえ

安心して預けています。

我が家を利用している学童保育は、子どもが通っていた保育園と同じ敷地内にあります。そのため利用者は、保育園時代から一緒に過ごしている同級生や上級生・下級生がほとんどで、保育園時代の先生も近くにいらつしやることもあり、本当に安心して預けています。夏休み・冬休みには、遠足なども計画してくださり、仕事でどこにも連れて行つてあげられない時など、親はとても助かり、子どもは大喜びです。昨年、サーカスを見に行けたことはうれしい体験でした。

今、学童保育に対して特に不満などはありません。ただ、子どもが利用している学童は、希望者が多く、3年生までとなっているので、我が家はあと1年となりました。今年から少しずつ学童に行かない生活の練習をしなくては、と考えています。(いきなりでは本人も戸惑うでしょうから...)。ちょうど3年生になったら野球を始めるので、練習日は学校から直接自宅へ戻ることにします。心も体もたくましく成長してくれることを願っています。

学童保育に求めるもの...

ネットで検索したら、「学童保育とは...児童館などを利用して適切な遊びと生活の場を与え、その健全な育成を図るもの」とありました。

兄弟がいないので、同じような年代の子どもたちとたくさん遊ぶこと、そしてその中で譲り合ったり、助け合ったりすることを学んでほしいと感じます。たまには...けんかもしてほしいですね。

※市内の民立民営の放課後児童クラブに子どもが通う保護者の声を紹介しました

取材を終えて...

放課後、子どもたちはさまざまな場所で、さまざまな形の時間を過ごしています。家庭で過ごすほかにも、スポーツ少年団や塾・おけいこごとに通ったり、子ども会に参加したりと、子どもたちの生活は、さまざまな環境(つながり)の中で成り立っています。

学童保育もそのひとつで、地域の中にある生活の場であり、共働き家庭や一人親家庭の子どもたちにとっては、放課後の生活の大部分を占めている場所です。

小学校に入ると、子どもたちの生活はそれまでと比較にならないほど広がります。放課後の自由な時間に多様な仲間関係を作りながら、さまざまな遊びや活動に自主的に取り組むことは、子どもの成長・発達にとつてとても大切なことです。しかし今、子どもたちの自由な時間は短くなり、地域に安全で自由に遊べる場所も少なくなってきました。また、子どもたちの友達関係も変化してきているように感じます。

学童期の子どもたちをはぐくむためには、前号で取り上げた地域の大人が協力して取り組む「安全パトロール」などに加え、長い目でみた「安全な環境の中で健全に子どもたちが育つ地域づくり」が求められています。

学校・家庭・地域はもちろん、すべての大人たちが連携を図り、これからの時代を担う子どもたちに安全で安心して生活できる「時間・空間・仲間」の「三つの間」を提供していくことが、家庭の子育てや養育力の向上を促し、地域の教育力の向上へとつながっていくのではないのでしょうか。

第23回都城・旭川児童生徒ホームステイ「冬季交流」

子どもの声

距離や年齢など関係なく、友達もたくさんできたし、スキー・雪かき・雪合戦など、普段できない貴重な体験ができた。

初めて、雪だらけの旭川を自分の目で見たが、都城では見ることのできない大量の雪に、とてもワクワクした。雪遊びがすごく楽しかった。

スキー・そりすべり・雪だるま作りが、超楽しかった。

一面の雪景色と、屋根にツララがあったことが印象的だった。雪がフワフワしていて、サラサラだったのにびっくりした。

家の窓が、二重・三重になっていて、外は雪が自分の身長より高く積もっていたので、驚いた。かまくら作りを教えてもらったが、かまくらの中が暖かいのは意外だった。

初めて食べたジンギスカンは、脂身が少なくおいしかった。

ホームステイ先の家族が、とても親切で優しかった。また絶対旭川に行きたい。

今話題の、旭山動物園で見たホッキョクグマやアザラシ、ペンギンがかわいかった。



保護者の声

数年前に長女も参加させて、今でも旭川のホストファミリーとは家族ぐるみのお付き合いをしているので、この交流のよさを身をもって感じている。

帰ってからのたくさんのお土産話と、それを話す子どもの笑顔は、親にとってもうれしく、かけがえのない体験をしたことがわかった。

これからもこの交流を、末永く続けていくと欲しいと切に願う。

【日程】
2010年1月7日(木)～11日(月)
【内容】
*スキー体験
*旭川市科学技術館サイパル見学
(雪の結晶観察・超低温実験など)
*北海道立青年の家での研修
(ミニ運動会・パン作り)
*各家庭でのホームステイ

“盆地っ子”と“道産ん子”の最初の出会い？

23年前(昭和61年)の夏、旭川市で開催された日本PTA全国研究大会での都城市P連(池永孝会長)と旭川市P連(山口勇会長)の出会いが、交流の始まりである。

南国の“盆地っ子”と北国の“道産ん子”がそれぞれ親元を離れ、気候・環境・慣習の異なる土地でのホームステイ体験を通して、異年齢集団が相互に連携を深め、互いに触れ合い、大自然の恩恵を全身に受ける中で、豊かな感性をはぐくみ、より広い視野と社会性を身に付け、21世紀を担う子どもにも育ってほしいという願いを託したのが、この交流活動である。

これまで、319人の都城の子どもたちが雪の町旭川へ、ほぼ同数の旭川の子どもたちが太陽の町都城へ足を運び、交流を満喫している。

そして、参加家族のほとんどが、今でもホームステイ先と深い交流を続けている。これからも都城・旭川児童生徒ホームステイ交流の灯火が灯り続けることで、素晴らしい人材が育っていくことを切に願っている。

第24回 都城・旭川児童生徒ホームステイ 参加者募集

北海道の子どもたちと友達になりませんか！

夏季交流／2010年
7月25日(日)～29日(木)【予定】

冬季交流／2011年1月【予定】

対象／市内の小学4年生～
中学2年生

募集期間／2010年5月～6月

【問い合わせ先】
都城市PTA連絡協議会事務局
TEL 24-5312

市Pトピックス



姫城の風が
子どもたちを・・・

姫城中学校 PTA会長

大内山 浩一

姫城地区PTA連絡協議会は、明道小・南小・姫城中三校で構成し、レクリエーション活動・交流会・講演会などの活動を行っています。

中でも珍しいのは、各地区対抗の9人制バレーボール大会を40年間続けていることです。各地区1～2チーム、先生方も各校1チームを編成し、全部で19チームが優勝を争います。2体育館を会場に、300人を超える会員が終日関わる一大事業となっています。PTAのOBにも審判団を構成してもらい、新旧の交流の場にもなっています。さらに夜の交流会も、例年200人を超える会員が集まり、盛会の中に1日が終了していきます。

また、教育講演会では、地区内の保護者が、さまざまな教育問題について共通理解を持ち、子どもたちと向き合うきっかけづくりとなっています。これら連絡協議会の活動以外にも、朝の交通安全・あいさつ運動の実施期間について、地区内で統一して実施するような取り組みも行っています。

このような地区内が一体となった取り組みが、姫城の風となって、子どもたちを包んでいますので、この雰囲気在今后もずっと続けていきたいものだと思います。



子どもたちへの
大きなプレゼント

五十市小学校 PTA会長

柳田 聖一

五十市小学校は都城市南西部に位置し、児童数618人（戸数476）で、本年度創立135周年を迎えます。

PTA組織は、執行部、専門部、学年・学級部、地区支部で構成され、さらにすべてのPTA会員がいくつかの専門部に所属し一人一役として活動しています。

本年度は、研究主題として「子どもとのびるPTA活動の推進」を掲げ、副題を「できることを当たり前に取り組むPTA活動の実践」として、子どものすこやかな成長のために会員相互の親睦・融和と研修をもとに実践的なPTA活動に取り組んできました。

なかでも、事業部が中心となって作成した『五小つこ農園』は、PTAから子どもたちへの大きなプレゼントになったと思います。「生活科」や「総合的な学習の時間」に体験活動を行うための畑を、学校長の発案で校内に作りしました。広さは約108㎡とわずかですが、来年度はここで土まみれになって活動する子どもたちの姿を見るのが楽しみです。今後も「子どもとのびるPTA活動」の実現に向けてがんばっていききたいと思います。

※今回は市P研究指定校の活動を紹介しました

単Pリレーエッセイ

「春機発動期の旬を綱ぐ」^{つなぐ}

vol. 2

山田中学校PTA会長 横川 基智造



そこで、山田中PTAでは「チームプレーを学ばせる」ために、一本の綱の両端を親子・先生で引き合せて勝負を争う「綱引き大会」を行っています。チームが勝つためには自分の役割を果たすことが重要である、個人プレーをはいけない、負けから学ぶこともたくさんある、勝つのも時の運だから有頂天にならないなど、仕事の仕方を学んでいるというわけです。

子どもが学校で身につけるべきことは何でしょうか。読み、書き、計算など、今後の社会生活を営むうえで不可欠な知識やスキルが第一に必要です。しかし、同時に社会でどのように行動していくか、他人とどう関わっていくかの基本的な知恵を身につけることも大事です。

平和で豊かな生活を手にした現在、多くの人は自分が何のために生きているのか、どのように生きていきたいかを、見失いつつあるように思われます。人生の価値を見出し、自分たち一人ひとりがおかれた現実と進むべき未来について丹念に考えていってほしいと願っています。

第30回宮崎県 小・中学校PTA 新聞コンクール入賞校

優秀賞

高城小学校

「ゆずりは」



優良賞

五十市小学校

「ごしょうPTA」



優良賞

西中学校

「高千穂」



活発な討議行われる

45人の参加で、今年も市内全域の単位PTA(以下、単P)会長研修会が多くの実りを得て、盛会のうちに終了しました。開催時期の問題については、さまざまな意見があり、なかなか結論が出ませんが、しかし会長の皆さんが一堂に会する機会は、「絶対に必要」との声が根強い中での継続事業でもあります。今回は、「我が校のPTA活動について」の討議題で、4班に分かれて、熱い意見が交わされました。どの単Pも、事業への参加者の少なさに頭を悩ましていますが、顔合わせのできる場を増やすとか(例えば、親父の会とか)、総会での事業報告では楽しい思い出も報告するとか、行事などの役割分担はみんなで行うとか...。単Pの実態に応じて、ゆるやかに対応されている活動状況が情報交換され、最後にはやはりPTA活動は大変だけれど必要、との声でまとまりました。単P会長の皆さんの熱い思いで、あたたかい空気を感じる会でした。



市P連のホームページを開設しました!

都城市PTA連絡協議会の情報を広く発信していくため、平成22年2月にホームページを開設しました。今後、さまざまなコンテンツを順次掲載していき、内容の充実を図っていきますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

<http://www.miyakonojo-pta.jp/>



お知らせ

平成22年度「市P連総会」

- 期 日 平成22年5月15日(土)
- 時 間 17:30~19:10 ※総会終了後、意見交換会
- 会 場 メインホテルナカムラ

「広報担当者講習会」

- 期 日 平成21年5月22日(土) ●時 間 9:30~12:00
- 会 場 都城市中央公民館大集会室
- 講 師 毎日新聞社宮崎支局長 大島 透さん
- 負担金 1校1,000円(人数制限なし)

編集後記

先日、息子の部活動で1泊の遠征試合に同行する機会がありました。宿泊先で、相手チームの保護者に手厚いもてなしを受け、親子共々「感動」の2日間を体験させてもらいました。子どもが部活動に属するようになり、多少忙しく感じる日々ではありますが、親としてさまざまな活動に参加させていただく中、たくさんの方々と出会い、触れ合い、つながりを持てる、今この時を大切に、そして私たちを取り巻くすべての方々へ感謝し、親子共に学んでいかねばと思うのであります。

さて市PTA広報紙「つなぐ」も第2号を発行する運びとなりました。子どもをまんまにした家庭での語らいにぜひ役立ててください。

忙しい日々感謝! 子どもたちに感謝!
編集委員長 竹田佐代